

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670100209
法人名	社会福祉法人 青香福祉会
事業所名	グループホーム 藍香
所在地	徳島県徳島市川内町平石住吉183番地 (電話) 088-666-3811

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 10 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 25 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 22 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤:10人、非常勤:7人、常勤換算:1丁目 5.9人 2丁目 6.95人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000～39,000 円	その他の経費(月額)	共益費6,000円、その他実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	180 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 25 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	63 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大塚外科内科
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は主要道路から奥まった民家の少ない静かな環境に位置し、木造平屋建て2ユニットである。ユニットごとに玄関があり、双方の廊下のガラス越しに中庭の木々や空が眺められる造りで、季節の移ろいや自然が目の当たりにできるゆとりある空間を持っている。医療連携体制や併設施設の協力により24時間の支援体制があり、利用者の安心に繋がっている。定期的なボランティアの来訪によるフリーマーケットや会員の特技を活かした活動などを利用者と共にやり、地域との継続した交流に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は、介護計画の定期的な見直しと利用者や家族への十分な話し合いである。職員は利用者一人ひとりの介護計画実施表を作成して日々の支援結果をチェックし、1か月ごとに集計して見直しに繋がっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価の意義を理解し、スタッフ会議時などに内容を十分に検討して作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、家族や地域住民、地域包括支援センター職員、事業所の職員などが参加している。会議では評価結果や改善点、活動報告などを行い、参加者からも意見や要望などを出してもらうなどして運営に活かしている。会議内容は回覧し、職員の確認印・サインがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や要望等は、玄関の意見箱の設置、苦情受け付け担当職員の配置と面会時の言葉かけ、ホーム内や契約書に行政などの苦情相談窓口を明記するなどによりいつでも言ってもらえる配慮をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公民館で行われる町の文化祭に作品を出展したり、地域行事に参加するなどしている。また法人が主催する祭りに地域住民の参加を呼びかけたり、定期的なボランティアの来訪によるフリーマーケットなどを通して交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年に見直し、地域密着型サービスとしての理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に唱和するなどして全職員で共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館で行われる町の文化祭に作品を出展したり、地域行事に参加するなどしている。また法人が主催する祭りに地域住民の参加を呼びかけたり、定期的なボランティアの来訪によるフリーマーケットなどを通して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は評価の意義を十分理解している。自己評価は全職員でスタッフ会議などの時に内容を検討して作成している。外部評価結果についても具体的な改善策をスタッフ会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、家族や地域住民、地域包括支援センター職員、事業所の職員などが参加している。会議では評価結果や改善点、活動報告などを行い、参加者からも意見や要望などを出してもらいなどして運営に活かしている。会議内容は回覧し、職員の確認印・サインがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用状況の報告や法解釈などについての問い合わせ等を行っている。しかし、行き来してサービスの質の向上に活かす取り組みまでには至っていない。	○	市町村の担当者と行き来する機会などを設け、サービスの質の向上に向けて連携を図っていかれるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員が毎月、金銭出納状況の送付に加えて身体・食事・生活・活動状況を別様式に記載し、写真を添えて説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望等は、玄関の意見箱の設置、苦情受け付け担当職員の配置と面会時の言葉かけ、ホーム内や契約書に行政などの苦情相談窓口を明記するなどによりいつでも言ってもらえる配慮をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動時は内示の段階から少しずつ顔馴染みの関係ができるようにしている。離職により新規採用となる場合は他の職員が共に行動し、利用者への影響を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回スタッフ会議を開き、その後に各職員がテーマを決めて交代で発表する勉強会を実施し、お互いに研鑽しあっている。外部の研修計画により積極的に参加することを支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会に参加するなどして同業者と交流している。また相互訪問活動などでも交流し、同業者と共にサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事業所の見学や日中体験をしてもらい、また認知症対応型通所介護や短期利用型共同生活介護の利用などを通してサービスの開始に繋げ、徐々に馴染めるよう関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を敬う心を持って接し、体験談や知恵を教えてもらうなどして共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や買い物、散髪などは利用者の意向や希望を把握して支援している。意向の把握が困難な場合は、家族や関係者と話し合い利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向、医師、関係職員からの意見を通して課題を把握し、計画に反映している。特に家族からの意見については専用の様式に記載してもらって把握している。計画書には家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて定期的に見直している。また目標に対する実行状況を毎日チェックして1か月ごとに状況を把握し、状態等に変化が見られた場合には随時、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、併設施設の看護師が毎日利用者の健康状態を把握し、受診が必要な場合は家族の状況に応じて職員が付き添っている。また認知症対応型通所介護と短期利用型共同生活介護の体制も整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、利用開始時に利用者や家族、医師、職員などと話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーが守られるように、入浴介助時などにはその人に合わせた言葉づかいや対応を心がけている。また、個人情報については秘密保持の誓約書を職員と交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事への参加などは、できるだけ利用者の意向・ペースを尊重し、希望にそった支援ができるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の好みを聞いて、管理栄養士が献立を作成している。食材の購入や調理、後片づけなどは利用者と職員が一緒に行っている。また同じテーブルを囲み、共に楽しみながら食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が入りたいときに入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者にも週3回は入れるよう言葉かけなどを工夫している。檜の浴槽は三方向から入れるようになっており、入浴や介助が行いやすくなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、ボランティアと一緒にカレンダー作りや習字、カラオケ、おやつ作りを楽しむなど、利用者一人ひとりにあった気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭にテーブルやベンチ、パラソルが設置されており、戸外での日光浴や外気浴が気軽に楽しめるようになっている。また事業所前の道路は車のおりが少ないため、日常的な散歩が安心して行われている。買い物やドライブ、外食などの機会も多く取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。利用者の思いや不安を把握し、一人で外出しそうな場合は、行動範囲の把握や併設施設の協力により安全を確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定するなどして年2回の避難訓練を実施している。しかし、地域の人々の協力を得られるような働きかけが十分ではない。	○	地域の方々にも訓練に参加してもらうなど、日頃から協力してもらえる体制づくりに取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てる献立や食事・水分摂取量の記録により栄養バランスに配慮した食事を支援している。また症状に合わせた代替食の実施や摂取量が少ない方に合わせた補食を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下などの腰板は木材を使用し、あたたかさを感じられるようになっている。また居室やトイレ、風呂などの表札は木目を活かした素材を使用している。廊下からはガラス越しに中庭が眺められ、明るい採光と紅葉などから季節が感じられるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や鉢植えの花を飾ったり、ソファ等を使い慣れた家具を持ち込むなどしてその人らしい居室づくりを支援している。		